

1. 病棟の具体的な目標と評価

1) 安全で質の高い看護を提供する

毎週、手順を読み合わせ看護技術の再確認を行った。また基準・手順委員会を中心に小児看護基準を2件作成した。昨年度の課題で、デスカンファレンスの開催ができていないことが挙げられた。そこで今年度は、がん専門看護師を招きデスカンファレンスを2件行い、グリーンケアを行った。デスカンファレンスに医師も参加し、治療方針の確認や医師の説明を家族が理解できているか確認することが必要であるなどの振り返りができた。そしてカンファレンスを通して、終末期患者の看護におけるエンゼルケアの理解を深めていくという課題を抽出することができた。5Bから6Bへの転棟前カンファレンスには10回参加し、ケアの継続を図ることができた。退院前訪問2件、退院後訪問2件実施し、それぞれ病棟看護師が1~2名参加した。退院前訪問では、家屋や自宅環境の確認ができ、指導につなげた。また退院後訪問では訪問看護師と同行し、加算取得を行うと共に、在宅への継続看護につなげた。来年度も退院前後訪問の症例があれば積極的に実施し、医療ケア児の看護の質向上に努めていく。

2) 病院経営に参画する

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、1日平均患者数は27.0名(昨年度36.0名)、病床利用率は54.0%(昨年度72.1%)、病床稼働率は64.5%(昨年度86.5%)であった。そこで、効果的な人員配置の観点での支援は勿論、これをスタッフの成長につなげる経験の機会と考え支援計画を立てた。救急外来、処置センターの他、一般病棟への支援はスタッフにとって小児科以外の看護実践を行うことの自信につながったと考える。部署外に視野を広げることで他部署との連携の重要性に対する認識も高まったため、病棟看護師42名中39名が応援を実施した。来年度は外来や救急外来と連携を強化し、緊急入院の対応を速やかに行い、患者・家族の安心につながる体制を強化していきたい。

SPDラベルの紛失については、委員会を中心にどのような運用になっているのか見直し、9月以降、紛失は0となったが、物品が5つ紛失した。医師が棚から持っていくこともあるため医師への注意喚起を行う必要がある。来年度はラベルのみならず物品の管理を徹底していく。

3) 患者の視点に立った医療安全を推進する

呼吸器関連のインシデントが5件あったため、チェック表などの作成を行った。チェック表を活用することで呼吸器関連のインシデントは発生しなかった。転倒転落は14件発生し、家族への指導を見直すことが課題として挙げられた。そこでパンフレットについて指導時期の見直しを行い、緊急入院2日目にも再度説明を行うことを追加し、パンフレットの内容も修正した。転倒転落の発生は10件(昨年度14件)と減少したが、今後もバンボやチャイルドチェアーの積極的な使用を促すことや家族の柵の上げ忘れを防げるような指導方法を見直していく。感染対策については、手洗い、手指衛生の徹底を図り、アウトブレイクは0であった。6S活動では、病棟内の機材庫・処置室の整理整頓を行い、環境整備を図った。

4) 専門職業人としての能力開発に努める

昨年度の課題で、専門的能力の育成のためには、1~2年目看護師を対象とした勉強会以外の対策も必要であることが挙げられた。そこで勉強会だけでなく、退院後の医療的ケア児のカンファレンス

を 11 件行い、地域連携室との強化やスタッフ間での情報共有を図り退院へつなげた。そうすることで実践の中で知識を深めると共に、チームの連携を促進することができた。来年度は医師やリハビリなどの他職種を交えたカンファレンスを行っていく。

5) 看護の先輩として学生の指導に携わる

学生指導の専任化を継続し、実習生の受け入れを行った。実習評価アンケートでも 4.2～4.8 点と高評価であった。しかし病棟の指導体制についての他者評価は導入しておらず、来年度は実習受入体制のアンケート調査を実習生に行い、指導体制の見直しを図っていく。また新たな学生指導者の育成を図っていくことが必要である。

6) 活気ある職場、元気の出る職場づくりを推奨する

時間外勤務時間は、事前命令・事後確認の徹底を行うことで年間 693 時間減少した。また副看護師長やベテラン看護師が率先して帰宅することで、業務が終了しているスタッフが帰宅しやすい雰囲気作りにもつながった。今年度より PNS を導入したがパートナーシップマインドの定着は図れておらず、改善が必要である。またリシャッフルも効果的に行えていないため、リシャッフルの時間、方法の改善を図る必要がある。

2. 病床運営状況

表1 令和2年度 病床運営状況

収容可能 病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院 患者数(人)	平均在院 日数(日)	病床 利用率(%)	病床 稼働率(%)
		新入院患者数 (人)	退院患者数 (人)				
50	小児科・ 小児外科	154.7	159.3	27.0	5.2	54.0	64.5

重症加算病床		有料個室		死亡者数(人)
病床数(床)	稼働率(%)	病床数(床)	稼働率(%)	
				3

3. 看護体制

表2 令和2年度 看護体制 (令和2年4月1日現在)

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
48	PNS®	6:6

4. 看護統計

1) 部署データ

令和2年度診療点数 11,766.6 点(令和元年度 10,061.0 点)

令和2年度小児救急車ストップ時間:月平均 0.5 日